

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長	齋藤 政徳
都整-14	実施事業	交通安全施設整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 道路課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全な交通を確保し、事故防止を図るため。
効果	交通の円滑化、安全性の向上を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 交通安全施設を改修し、安全で円滑な交通を確保するとともに、通学路の安全対策を実施した。 市道046-000号線外の交通安全対策施設工事(歩道段差等改善)を行った。 市道015-022号線の交通安全対策施設工事(ガードレール設置等)を行った。 前年度からの繰越明許費により、市道059-007号線外の交通安全対策施設工事(ガードレール設置等)、及び市道027-000号線の交通安全施設整備工事(歩道整備)を行った。 市道055-000号線の交通安全対策施設工事(歩道修繕)及び市道027-000号線の交通安全施設整備工事(歩道整備)は年度内に完了できなかったため、翌年度へ繰越を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	17,751	24,485	当初予算(千円)	41,910		
	国県支出金	5,059	3,977	国県支出金	7,800		
	地方債	6,500		地方債			
	その他			その他			
	一般財源	6,192	20,508	一般財源	34,110		
事業経費運営	人員配置数	2.0	1.7	人員配置数	2.0		
	人件費(千円)	16,667	14,195	人件費(千円)	16,143		
	総事業費(千円)	34,418	38,680	総事業費(千円)	58,053		
	市民1人当りの経費(円)	195	219	市民1人当りの経費(円)	329		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	歩行者等の安全な通行の確保には、歩道段差等の解消やガードレールの設置・修繕が引き続き必要となるが、限られた予算や職員でできる事務量には限界があるため、引き続き現状維持とする。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>・歩行空間の確保、歩道の段差解消及び歩道の修繕等に係る市民ニーズは増大傾向にあることから、積極的に進めていく必要があるが、限られた予算や職員でできる事務量には限界があるため、現状維持とする。</p>
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	歩行者等の安全な通行の確保には、歩道の段差解消、拡幅整備、ガードレールの設置といった交通安全施設の整備が効果的なことは認識しているが、実施にあたっては道路幅員等に制限があり、十分な対応が図られていない。							
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	歩道拡幅といった抜本的な対策を講じることは困難なことから、交通安全維持事業と連携し、歩行空間を設けるなど交通安全対策に努めた。							<input type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	現在、車道を中心に舗装修繕を進めているが、市民からは歩道の計画的な修繕が要望されている。							

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方								
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	単位	指標の傾向						備考
当該指標を設定した理由		H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方								
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--